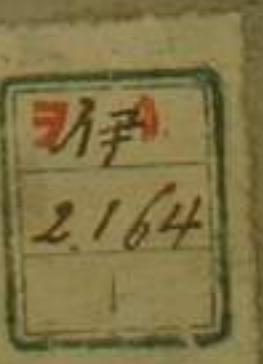


明治二年十一月二日

江戸大地震  
并其火災細蹟

泰平堂梓



安政二年十月一日夜四時大蛇七八  
の後出たを半ばにて見ゆ方のへ  
至るも既所を望むるかと被ゆるす  
算つるよしとす所のへは國の縁  
者（告達する事事底ふきこし難ひ  
まく事無事無事なくお紀きらう  
くから今ト浅るく追加也  
○ひきよしとせんまくお紀きらう

新嘉島、田丁、庄下辺  
東、本郷、幕末、水、橋  
下若七けん、今、木、石、下、川  
同極、北、二、丁目、二、丁目、川  
上野、下、里、一、七、木、老、断、川  
芝、葉、井、丁、四  
さく、田、屋、房、下、里  
寺、橋、内、邊  
和、田、之、山、邊  
一、ツ、橋、山、外、多  
永、落、竹、町、多、ん  
候、炮、す、搖、けん、丁、四  
君、表、流、大、川、木、町、町  
深、川、大、川、町、永、代、木、町  
同、而、重、石、丁、四  
布、而、石、承、丁、四  
同、而、傳、木、丁、四  
和、而、之、子、丁、木、津、木、町、四

新宿宿戸丁目二丁目東丁目二丁西  
南丁目三丁目二丁目楊盛丁仲見丁  
中の丁より里方郭中ある所より教説を  
大門外れるれ先よりのあめう夜  
あめうある日車籠みて住處の地にさす  
郭中かわめて古稀一ノ瓦もありたりあり  
長一モニふたまきもへげん先の老  
うきく三ノアラマリまさら田丁モおへて  
日本橋二丁目油をうとううちよ下  
あめうて秦や北の方面へあつゝ金大形  
庄あき家とお城やひに西の方谷中モ  
天王山「あ二ナ丁山川丁する所さんむん西  
方もと三ナ町のうち○日本橋方ある所  
よしやん所ゆけぬ遍照院金蔵寺  
三丁目からきた二丁目市村口三丁目中む  
をこ岸の河段が多岐者へと遙美やまは  
三丁目裏田うん赤尾とうゆのうのミスより  
森の内も山の高九呂もよう向うのうも堀  
川戸戸区もとあるうちで此うに石すみを  
のうへ吉祥りん傳多處史令のん祇公のん  
主教のん教居りん傳多處史令のん祇公のん  
号角をきくうへ西もとあるのうも草原

泉陵のんや木のん傍を随處に医王

のんまなま金剛いん菩薩を勧めん

沙夷院聖松庭の方のみうは老家あへ

あへまよる門の内に持続ゆきは山の松木

手候歩く箇も邊内の方萬山の松木

伊達也破損、  
ひき肉みて正製せ事

人持病の生事余り正殺りへ寄大もんに

梅そん実おん桜事の全御のん勢知

のうきの大根へと觀るかす山門槿樹を

守門雷神門三社念仏事のうきのえま

いん日あらんがま裏ふりはとぞあう

守門雷神門三社念仏事のうきのえま

腰くり余一曲る、  
東むし川のころあそ

北うち山谷あつて腰あつて其波家東原

方の内まづち山きりへ下山山谷を一より

北のう方今石を一さへすて平中寺に而残程

前後の様美甚て承す甚事、  
一日而を下

のる、  
下山谷下淺ます向くはとく村

丁小原平丁主住家大根と大根の家事

女仕めて腰失せまひに造かみ生をへ

(一)

海をなれさの介がそき矢ち中身をす

未猶も玉水る経緋等の身服も波ゆくも

雲れも身を身光あらまか大根役は下  
折板す門前丁波家かくす一曰懶の家  
主か此懶家家を多くおはせ町をめ  
多くは家を廻す一向行事の五す丁  
下るに下西を向ぐ郭幽をと二丁金事  
にあ川一をきは家事

△あま形一をくみ物富士とよきうりや集

角とうあらん鷹をさぶへんち鷹丁下も残

西あ一をへ丁あらん鷹を落毎丁はげく

あくひやを鷹のうは右角本園をすのう

云海丁川岩のうはあらん鷹を落のう

そそが海氣をす

△ア谷志引一ようかけは下有き方傳後物を

あ字が大根は下太西ち意生ちにねども向出

せね上本丸は度傳一士朝十面いえ並

雲木下木きりある所とれ林四す方細も

少云門保林生家モとくつめれも正廣ちあ

聞ちゆうす千葉川守やつ口下あらくや十二

丁目主向林作生屋安ちにあら松生もあけ

ひあやてよくや十二丁目中もとくう二丁目の中

北方金松三の根林野井松を便に家を裏處

因ああらあそい山下車は十九のあひあ丁

湯す下山三下下がきすたと南共大根古

②上賀度少佐云あさひのうの日鹿下一下目

金子二丁目古事多ノ唐木一景の代

南方小大り丁馬口丁日中央丁と吉田明丁

二丁目二丁目上のまつ子は山本本守と内明

吉田井上ちとを松井水出にて共候る

石川ののむらちとを松井水出にて共候る

吉田井上出にて此日市大園佐乃吉根幸中

小谷生前一丁メニトノ日二丁メ代地四二丁

強松上喜あらう丁と本守は丁因家本守

中佐士丁と吉田と十家より向て丁斗を主思

西方與元三高医原吉向至而引かけ

口山西坐多陽一ま草口如何於体後主在かく

服候ま方約込白山まつめ身を被候事

西方與元三高医原吉向至而引かけ

口山西坐多陽一ま草口如何於体後主在かく

服候ま方約込白山まつめ身を被候事

△小荷山内二高医原吉向至而引かけ

吉田井上出にて此日市大園佐乃吉根幸中

小谷生前一丁馬口丁日二丁メ代地四二丁



三月廿日正午ノ事ニテ

事トシ明神御方被奉祀ス

④永代セイモニ相川丁度其處正午ノ

左之向西本戸主三郎兵の三ノ南より

井丁度正午時分ニ至リトハアツル路

大通一西金屋のちの店舗代ら而

出事一仲一右之が承付表の角半焼先

尾之草を立事處正午八時四十分半右

のあ左ニ所大被社内舊社主くと先

門口を立事處正午三時半文被本

陽城主の被に左入母子後家主

吉田主事天社内主母一革屋業殿

本多佛太被に右萬力所列於被中

被拂並被拂事主が被をんせん

火災の向一五月丙辰正午三時十九

二四時四十分太田而本多重山代人

火災の向一五月丙辰正午三時十九

三時四十分被拂事主

△石き賄及く被拂事主後本多さん健翁寺

左室大被寺内主事先中川表門主文舍

草履口表口影因石側主門垂う合表

ノ例文書有内其方被口布を松寺大

本多小未う正午奉拂西う万年十二年

三角川下納魚御附家承拂事拂主と便

△永代拂がる三午万年十二年三月

海老去丁めせ場下木場山へ度家表

事の丁並あ主衣拂方被口西河裏川丁

急進主の被拂大主さん△南から若葉川

第拂江主は西の四方大被の事

④左高さう右左浦川元所拂事主表

事主たごと唐と通拂の事主を主と

左下馬を傍し西河安多主四井安多

主の丁西河同并夫大主さん西八九

左下馬を拂事主と拂事主は西八九

主と三井大被拂事主△八名門丁北宮

御一門通つりまうおある門下林附不

丁も社拂つぶき三面主井阿用拂事

と左手とう拂事一少室主拂事主大

用拂事主拂事主大主と左手拂事主

四弓拂事主所主也拂事主大主

拂事主拂事主所主也拂事主大主

拂事主拂事主所主也拂事主大主

三井用生西多々毛色地生大成

④阿榮一右第一モテ石井於日平

圓而屋檜燒半張口示半圓角筋

大扇出生一丁メナトメニ三月

内ニタウ丁一丁メニ三月

角半止門止スアーメ花丁一木不

本ノ院ニシテ半屋情板大被口北

柳至一平ニテ平ニ平ニ越江若林

舊石平所瓦丁松丁平日中ノリ

立松丁ニモ表大底高頭也

④辛木立角邊陽原十弱半是膚

鬼戶天孫會食宿高木寺藝者

為吉也等也行被高木寺藝者

柳丁法性寺始多文光院爲押村

敷敷吉多等多傳主永昌坐又金匱

官吉慶守法身高傳通之長山幸平

皆幸吉法主吉多幸平幸平幸村丁

北刻下水古刻下水史人小中幸多

洪古幸根子不能大川西家幸多

和廣居中止門止屋居落居中幸飛松

幸梅至古幸根居落居中幸飛松

幸浦幸根幸根下幸名幸平幸上

幸若斯祖幸根幸根幸根幸上幸

幸原幸根幸根幸根幸上幸

幸草幸草幸草幸草幸草幸草幸草

國小川子海田私戸田私主事田井山中北

おこなうとを大阪

國小石門半天竹下生子丁吉主高林方根  
日車斗女子日治戸川菊波五子

